

平成26年度 北九州 子どもの未来をひらく教育セミナー 実施報告

指導部

1 目的

「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」に基づき、本市の教育行政の一端を教職員や保護者はもとより、市民一人一人に広くPRする。

2 開催日時 平成26年8月12日（火） 9：00～17：00

3 会場 西日本総合展示場

4 内容

- めざせ！家庭学習マイスター
- 小中一貫・連携教育実践発表
- 環境未来都市「私たちの実践」
- いじめ防止サミット in 北九州
- 心の教育フォーラム

5 参加者	2, 230名	(内訳)	教職員	1009名
			保護者・一般市民	563名
			児童生徒	617名
			関係者	41名

6 参加者の声

(教職員・保護者)

教職員：例年に比べ規模の大きいセミナーで、主催された方々のご配慮に対し、感謝いたします。いじめ防止サミットにおけるスライドを拝見しますと、1つ1つのグループに指導主事さんが、丁寧に関わっていただいた様子が伝わってまいりました。北九州市をあげて、地域総がかりで、北九州市の子どもを育てていこうという意気込みがよくわかりました。

保護者：普段、他のお子様や他校の取組を知る機会がなかなかないので、学習・環境への対策など、とても参考になりました。家庭でも真似できることは、実践していきたいと思えます。

7 来年度開催予定日 平成27年8月11日（火） 10：30～17：00
 開催場所 芸術劇場 大ホール

平成26年度 北九州 子どもの未来をひらく教育セミナー 参加者数

実施日 平成26年8月12日

内部資料

時 間	事業名	参加者数					合 計
		教職員	保護者	一般	児童生徒	関係者	
9:15~9:35	めざせ！家庭学習 マイスター	225	125	5	13	7	375
9:35~10:35	小中一環連携教育 実践発表						
10:50~12:00	環境未来都市 「私たちの実践」						
13:00~14:40	いじめ防止サミット in 北九州	516	274	33	582	32	1,437
15:05~16:55	心の教育フォーラム	268	121	5	22	2	418
今年度合計		1,009	520	43	617	41	2,230
平成25年度		1,004	523		295	68	1,890
平成24年度		827	365		65	36	1,293
平成23年度		563	371		201	20	1,155

◎児童生徒の内訳

- 小中一貫・連携教育実践発表校児童生徒（4名）
- 環境教育発表校児童（6名）、環境キャラバン隊（3名）
- いじめ防止サミット参加児童生徒（582名）
- 心の教育フォーラム参加児童（22名）

◎関係者の内訳：集計できる人数のみ記載

- 小中一貫・連携教育実践発表校（4名）
- 環境教育発表校児童引率教員（3名）
- いじめ防止サミット参加児童生徒引率教員（194名）、来賓等（32名）
- 心の教育フォーラム 講師、引率教員（2名）

1. めざせ！家庭学習マイスター

平成26年8月12日に開催された「北九州 子どもの未来をひらく教育セミナー」第1部の最初の事業紹介として、開会式後に行いました。昨年度から本市教育委員会が行っている「北九州市家庭学習マイスター賞」の紹介をすることで、市内の児童生徒へさらなる家庭学習の定着と充実の啓発を図るものです。

1 「北九州市家庭学習マイスター賞」

北九州市教育委員会が、主体的、計画的、継続的に家庭学習に取り組む児童生徒を周知し、さらなる家庭学習の定着と充実に資することを目的とするもの。



2 昨年度の応募状況と受賞者

	応募数	校数	優秀賞	マイスター賞
小学校	215	40	6	6
中学校	170	9	4	2
特別支援学校・学級	3	3	0	1
合計	388	52	10	9

	氏名	学校名
小学校1年生	針尾 勇輝 さん	八枝小学校
小学校2年生	三田 陽月 さん	企救丘小学校
小学校3年生	岩淵 千織 さん	八枝小学校
小学校4年生	白石 ゆい さん	小森江東小学校
小学校5年生	樋田 幸祐 さん	若松中央小学校
小学校6年生	山口 さくら さん	長尾小学校
中学校1年生	光井 七海 さん	上津役中学校
中学校2年生	松原 思音 さん	柳西中学校
特別支援学校	吉永弟茂士 さん	小倉南特別支援学校

<注；学校名・学年は昨年度のもの>

3 紹介の内容

昨年度受賞者の取組から特徴的なところを紹介した後に、児童生徒本人がインタビューに答える形式で取材を行い、今年度の取組の様子をビデオで紹介しました。児童生徒は、それぞれの自主学習ノートをより分かりやすくまとめるための新しい工夫や読書の取組などを説明しました。また、本人の経験として、家庭学習をすることで授業についていけるようになったことや、苦手だった教科が好きになったことなどを話しました。今年度4月に各学校に配布した「家庭学習ハンドブック」を活用して取り組んでいることを紹介した児童生徒もいました。



特に中学生は、部活動や塾との関係で、家庭学習を続けるためには時間の使い方が大切であることや、無理なく続けるための工夫などを話しました。

最後に、担当から今年度の「家庭学習マイスター賞」の募集内容を紹介しました。その際に、周囲の大人の支援があって子どもたちの「家庭学習」が定着し広まっていくことを会場の教職員や保護者の方々に伝え、これからも励ましの声かけなどの協力をいただくように呼びかけ、紹介を終えました。

2. 小中一貫・連携教育実践発表

平成26年8月12日（火曜日）、「平成26年度北九州子どもの未来をひらく教育セミナー」において小中一貫・連携教育実践発表を行いました。

北九州市小中一貫・連携教育の推進（教育委員会 谷口）

まずは、教育委員会より、本市の小中一貫・連携教育の推進について説明をしました。子どもの発達の早まりや、いじめ、不登校などが中1で急増するいわゆる「中1ギャップ」など、小中一貫・連携教育が必要とされる背景について、文部科学省による調査データをもとに説明するとともに、本市における小中一貫・連携教育のシステムとその現状を紹介しました。



全中学校区を対象とした調査によると、昨年度から全市的にスタートした小中一貫・連携教育は、「中1ギャップの緩和」「中学校進学への期待と不安の解消」「小中学校の教職員間の意識の高まり」「地域との協働関係の強化」など、着実に成果を上げていることが明らかとなっています。今後も中学校区の現状を把握しながら、子どものより良い育ちにつながるよう、本市の小中一貫・連携教育の推進に努めていきたいと考えます。

篠崎中学校区の発表（篠崎中学校 上赤主幹教諭）

篠崎中学校区では、校長先生方のリーダーシップのもと、小中学校の教職員がしっかりとつながり、小中合同研修会や乗り入れ授業、保護者への情報発信や啓発、PTAの交流活動など、本市の方針に基づいて積極的な取組が展開されています。



子どもたちの育ちのために、まずは私たち大人が組織的、継続的に活動していくことの大切さが伝わってくる発表でした。

永犬丸中学校区の発表（永犬丸中学校生徒3名、永犬丸小学校児童1名）

永犬丸中学校区では、児童生徒がテーマを設定し、自発的、自治的な活動が協働で行われており、あいさつ運動を中心に「中学校区はひとつ」を合い言葉に、児童会、生徒会活動が展開されています。中学生のリーダーシップのもと、とてもよい雰囲気の中で児童生徒交流が行われています。



実践を通して、小学生は中学生にあこがれや感謝の気持ちを抱く中で活動意欲を高め、中学生は充実感を味わう中で自尊感情が高まっていることが伝わってくる発表でした。

（会場のアンケートから）

上赤主幹教諭による「まず教職員から」という意気込みと、永犬丸中学校区の児童生徒による「自分たちの力で」という意気込みが十分に伝わり、賞賛の声をいただきました。また一方で、自分の住んでいる校区の小中一貫・連携教育について知りたいという声もありました。セミナーにおけるこの発信を機会に、本市における小中一貫・連携教育がより充実し、学校、地域、家庭が一体となっていくよう推進を図っていききたいと思えます。

3. 環境未来都市「私たちの実践」

本市の環境教育施策の説明と学校における環境教育に関する取組についての実践発表を行いました。実践発表は、平成25年度環境賞受賞校の湯川小学校とユネスコスクールの尾倉中学校の児童生徒が行いました。

◆本市の環境教育の施策についての説明

- ・北九州市「環境教育プログラム」に示している各学年段階における環境教育の目指す力を説明し、本市の環境教育推進事業である環境体験科と環境キャラバンの位置付けを説明しました。
- ・特色ある環境教育等を推進する学校をユネスコスクール推進指定校に指定し、ESDの視点を踏まえた環境教育等を推進する拠点校の役割を担っていただいていることを紹介しました。
- ・平成25年度の環境賞受賞校の紹介をしました。



<北九州市環境キャラバンの活動報告と決意表明>



環境キャラバン隊の活動報告・決意表明

次世代の環境未来都市を担う子どもが「自ら考え、判断し、協力しながら、環境に働きかける市民環境力」を身に付け、子ども環境リーダーとして活躍することを目指して3日間にわたる環境体験プログラムを行ったことを活動報告しました。キャラバン隊の児童生徒代表として、北九州市立思永中学校 鈴木 聖さんが子ども環境リーダーとしての決意表明をしました。

<湯川小学校の発表内容紹介>

環境・生き物委員会や5年生が総合的な学習の時間を中心として「ホテルが住める地球の環境を考えよう」の学習を行ったことを発表しました。ゲストティーチャーとの関わりを通して学びを深め、児童の思いや実践意欲が高まったことが紹介されました。また、ホテルクイズを通して、自分たちの学びを表現しました。



湯川小学校の実践発表

<尾倉中学校の発表内容紹介>

「地球の未来のために」と題して、ユネスコスクールとしての取組を発表しました。生徒会が中心となっていて行っている3R活動について、各委員会ごとの取組を紹介しました。また、毎週行っている朝の清掃活動や皿倉山清掃登山、JICA 環境国際交流会の様子を発表しました。環境、国際理解、人権、防災、キャリア等に総合的に取り組む生徒の自主的な活動がまさに持続可能な社会の担い手を育む活動であることを発信しました。



尾倉中学校の実践発表

4. いじめ防止サミット in 北九州

平成26年8月11日(月)、8月12日(火)の2日間、北九州国際会議場やAIM、西日本総合展示場を会場として、いじめ防止サミット in 北九州が開催されました。市内131校の小学校と63校の中学校から代表児童生徒が各3名ずつ、約600名の児童生徒が集まりました。

実行委員会の取組

本年度は、小中学生の各区代表児童生徒14名が実行委員となり、サミットの計画・進行を行いました。サミットまでに、3回話し合いを重ね、サミットの討議の柱【資料1】を考えたり、サミットの際に自分たちができる役割を決めたりしました。こういった活動を通して自分たちでサミットを作っていくという意欲が高まりました。

【資料1】 討議の柱

- ① 昨年度の取組の振り返り
- ② いじめを生まない携帯電話やスマートフォンの使い方やルール
 - 時間
 - 言葉
 - おとなへの相談

各学校の意見の集約

全小中学校から、昨年度のいじめ撲滅のための取組の振り返りやいじめを生まない携帯電話やスマートフォンの使い方やルールについての意見・取組をアンケート形式で事前に提出していただきました。各学校独自の工夫された取組がたくさん見られました。アンケート結果を集約したものを実行委員会でも取り上げ、討議の柱を考える際にとっても参考になりました。

いじめ防止サミット in 北九州 1日目 グループ会議

8月11日(月)は、代表児童生徒が28のグループに分かれて話し合いました。各学校の取組や代表児童生徒の考えをもとに、どのグループも活発な意見交換が行われました。他の学校の取組を自分の学校でも取り入れていきたいという意見もありました。最後に、グループごとに意見をまとめました。



全体会

グループ会議に続いて行われた全体会では、グループの代表児童生徒が各グループでまとめた意見を報告しました。続いて、意見交換をし、本年度のいじめ撲滅のための取組【資料2】を採択しました。

【資料2】 採択された取組

- ① 昨年度の取組を継続する。
 - スローガン「なくそういじめ！ふやそう笑顔！」
 - いじめ撲滅宣言
 - ・私たちは、自分やみんなの心と体を気にかけて大切にします。
 - ・私たちは、あなたの悲しみを自分の悲しみとして受け止めます。
 - ・私たちは、いじめを許さず、仲間と一緒に考えます。
 - ・私たちは、自分ができることから実行し、いじめのない北九州市をめざします。
 - クローバーキャンペーン(クローバーシールを全児童生徒に配布)
 - ポスター
- ② いじめを生まない携帯電話やスマートフォンの使い方やルールについて
 - ケータイ・スマホ 夜10時オフ
 - 相手を傷つけることばは使わない
 - 困ったときはおとなに相談する

いじめ防止サミット in 北九州 2日目 報告

8月12日(火)は、まず、市内の学校のよい取組例として霧丘小学校、引野中学校の取組を映像等で紹介しました。手作りの紙芝居や生徒が出演したビデオなど、児童生徒が主体となったすばらしい取組でした。また、花尾中学校の今年の生徒総会で携帯電話やスマートフォンの使い方を取り上げ全校で話し合った取組や、特別支援学校での取組を司会者が紹介しました。福岡市からは2名の中学生が参加し、市内の小中学生が参加した「いじめゼロサミット」について報告しました。福岡市の取組は北九州市の児童生徒により刺激になりました。次に各グループの代表児童生徒がグループの意見をまとめたものを発表しました。最後に司会の堀井さんが昨日の全体会で採択された本年度の取組を紹介し、会場のみんなでスローガンやいじめ撲滅宣言文を唱和しました。会場の参加者からは、子ども達がいじめ撲滅に向けて真剣に話し合ったことを評価する声や、おとなが子どもたちを温かく見守っていく必要があるという意見が出ました。



5. 心の教育フォーラム

1 事業の概要

○ 学校関係者及び市民を対象とした、本市教諭による道徳の時間の公開授業と文部科学省教科調査官による講話を行うことで、学校関係者には道徳の時間の指導法改善のモデルを示すとともに、市民には本市の道徳教育への理解を深める場を設定することにより、本市の道徳教育の推進を図るものです。

○ 当日の主な流れ

① 15:05 藤木小学校4年2組児童22名（うち欠席者1名）、西村直美教諭 登壇

② 15:15 アイスブレイキング及び公開授業

○ <アイスブレイキング> 音読暗唱ブック「ひまわり」より「雨ニモマケズ」を音読

○ <公開授業>

・ 主題名 家族への敬愛

内容項目 中4－(3) 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくる。

・ 資料名「特別な味」（出典 北九州道徳郷土資料）

・ 主な学習の展開

- 1 若松区有毛産のキャベツを見る。
- 2 資料「特別な味」を読んで、主人公としきの気持ちを話し合う。
 - (1) 家の手伝いより、遊びに行きたいとしきの気持ちを考える。
 - (2) 「特別な味」がするキャベツを作る両親の素晴らしさについて考える。

※ 児童は、緊張しながらもマイクを持ち、自分の考えを発言していました。中心場面では、特別な味のキャベツを作る両親の懸命に働く姿を見て、「家族の一員として」自分も仕事を手伝おうとする資料中の主人公としきの気持ちに共感していました。



中心発問をする西村教諭

- 3 自分の生活を振り返る。
- 4 家族からのメッセージを見る。

※ 家庭で児童が手伝いをしているところの写真と、手伝いに対する保護者からの感謝の気持ちを書いた手紙をスライドとしてまとめ、提示しました。児童の働きに対する、心のこもった保護者からのメッセージに、児童や参会者の中には、胸が一杯になって涙を流すものもありました。



家族からのメッセージを見る様子

③ 16:10 演題「家庭や地域との連携を図り、自己の生き方についての考えを深める道徳の時間の充実」

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官

赤堀 博行 様

2 事業のアンケート結果より

○ 学校関係者の100%（該当アンケートに回答した者のみ）が、今回のフォーラムについて今後の道徳の時間の「参考になった」（うち「大変参考になった」は約74%）と回答しました。

○ 児童の発言への温かい受け止め方や家庭との連携等についての努力を高く評価するものが多くありました。

○ 保護者の声として、「日頃近すぎて見えない自分の家族との関わり、自分が家族の中で果たしている役割について、少し遠くから見つめると重要さが見えてくることのあることに気付いた」「感謝の気持ちを子どもにそして夫にいつもその瞬間に伝えていこう」などがあり、楽しい家庭作りへの視点を提示することができました。